

2023年3月3日

報道関係各位

一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
ゲキダンイノ合同会社

大手町・丸の内・有楽町地区スマートシティプロジェクト

**新しい低速自動走行モビリティによるまちづくりに向けた実証実験を実施
～丸の内仲通りにおいて回遊性向上や観光体験を想定した2つのルートを走行～
ゲキダンイノ社製モビリティ iino type-S712(*1)が地上の公道を走行した、日本初の事例**

大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり3団体の一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会（以下「大丸有協議会」）は、大丸有（大手町・丸の内・有楽町）エリアにおけるスマートシティビジョンで掲げる都市のリ・デザイン像に基づき、ゲキダンイノ合同会社と連携し、**2023年2月27日(月)、28日(火)、3月1日(水)の3日間、丸の内仲通り（東京都千代田区）にて新しい低速自動走行モビリティの公的空間における走行実現性および移動の体験価値に関する実証実験を実施しました。**2023年4月1日に施行予定の改正道路交通法にて設置される新車両区分「遠隔操作型小型車」への認定を見据えた公道での試験走行という位置づけで、今回走行したゲキダンイノ社製モビリティ iino type-S712(*1)が地上の公道を走行した、日本初の事例です。



今回の実証の結果、歩道や建物内貫通通路等の公的空間において人とモビリティが共存する景観に対する社会受容性や安全性を確認することができ、走行実現性があることを確認しました。また、実証実験を通して、低速走行ならではのまちの空気感を味わい、ドリンクスポットと連携する移動体験価値、モビリティに自由に乗り降りし移動の利便性を高める価値が確認できました。日常時ならびに観光・MICE等の非日常時のユースケースのニーズが存在することを明らかにしています。

本取組みは、大丸有協議会を構成員とする大丸有スマートシティ推進コンソーシアムが採択を受けた2022年度「国土交通省(都市局) / スマートシティ実装化支援事業(継続採択/4年目)」の一環として実施。実証実験は、大丸有エリアにおける Smart & Walkable のコンセプト実現に向け、自動走行ロボットや自由なグリーンスローモビリティ等の新たなモビリティ等と人が公的空間で共存するリ・デザインの都市像の在り方を検証したものです。今後も Smart & Walkable の実現に向けて大丸有エリアはスマートシティ関連の取組みを推進してまいります。

(*1)自動走行モビリティとしては車体型モビリティや電動キックボード等のパーソナルモビリティが代表的（当地区でも過年度実証済）ですが、ゲキダンイノ合同会社製 iino type-S712 は、既存のモビリティの枠組みにとられない3人乗り・乗り降り自由・時速5km以下でよりスローに走行し、家具のようなまちに溶け込むデザインが特徴的です。

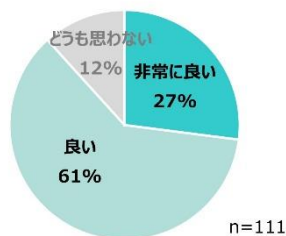
新しい低速自動走行モビリティの実証実験 検証結果**【走行実現性の観点での検証結果詳細】**

3日間、ゲキダンイノ合同会社製の iino type-S712 が、事前予約済の関係者140名を乗せて自動走行を実施しました。本実証では、近接監視員1名、運転員1名が随行する「近接監視操作型」にて、横断歩道を含む歩道、

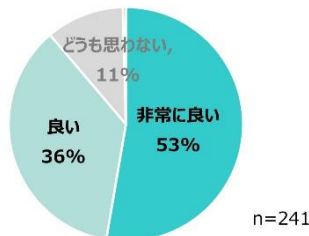
建物内の貫通通路の走行を行い、無事故で約 15 時間の走行を完了しています。

試乗者へのアンケートによる乗車感について、「非常に良い」「良い」と回答した方が 88%、試乗者・通行人へのアンケートによるモビリティが歩行者と共存するまちの風景について、「非常に良い」「良い」と回答した方が 89%と、公的空間で歩行者と本モビリティが共存する際の社会受容性や安全性を確認しています。

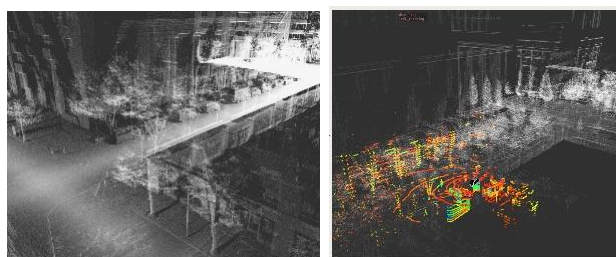
乗車感（乗り心地・乗降の仕方など）
についての満足度をお聞かせください。



新しい低速自動走行モビリティが点在し
人と共存するまちの風景についてどう思いますか。



なお、エリア側にて事前取得した 3D 点群データを用いて、モビリティが自己位置推定可能であるかを検証し、実際に走行可能であることも確認しています。将来的には複数台・複数社のモビリティ(およびロボット)をエリア共通のマップを用いて一元的に管理・運行していくことが考えられます。



【移動の体験価値の観点での検証結果詳細】



回遊性の向上や裏路地への観光体験を想定した 2 つのルートを検証しました。丸の内仲通りのみを走行する直線ルート（ルート 1）では、主に就業者の日々の移動や来街者のエリア内の回遊性向上に寄与する移動手段としてのユースケースを想定し、乗り降りしながら約 330m の片道を 6 分で移動。全体では約 480 分、計 25 往復、95 人の方に試乗いただきました。折り返し地点の有楽町 micro FOOD&IDEA MARKET(*2)とドリンク提供の連携を行い、ドリンクを片手にモビリティに乗降する日常を想定した移動体験の提供を行いました。アンケートでは、普段より高い目線で街を見ることができ面白かった、同乗者との会話が弾んだ、歩く時よりも景色を見る余裕があり店舗が並ぶ通りを楽しめた、などの声をいただきました。（*2）有楽町 micro FOOD&IDEA MARKET <https://yurakucho-micro.com/>

丸の内仲通りをランブリングし、建物内貫通通路を通過して Slit Park(*3)を走行するルート（ルート 2）では、主に観光目的などでのエリア内移動のユースケースを想定し、約 240m の片道を 10 分で移動。約 420 分、計 16 往復、45 人の方に試乗いただきました。ルート途中の Slit Park においてドリンクの提供を行い、移動体験の付加価値としてドリンクが果たす役割を検証。また、JNTO TIC にて外国人観光客モニターを募集し、実際に試乗体験を案内、ユースケースの受容性を検証しました。アンケートでは、公道から建物の中へシームレスに入っていく体験が非常に新しかった、街の中をアトラクショナルに楽しめてよかった、屋内外の観光地巡りとの親和性が高い、という声をいただきました。また、外国人観光客モニターからは、コーヒーを飲み会話をしながらの移動はとても良い体験だったという声をいただきました。



(*3)Slit Park <https://wick-slitpark.studio.site/>



なお、大丸有協議会が構築する都市 OS とモビリティの位置情報をリアルタイムに連携し、モビリティの走行情報について大手町・丸の内・有楽町地区リアルタイム回遊マップ「Oh MY Map!」(*4)上でも現在地を情報発信し、利用者の利便性を高めるなどの連携も実施いたしました。将来的な複数事業者による複数台走行が実装化される状況においては、都市 OS 等を活用したエリア単位での公的空間モニタリングが重要であり、遠隔監視等と連携した現地での効率的な緊急対応体制の構築、効率的な運行の実現に繋がることが期待されます。

(*4)Oh MY Map! 専用ホームページをご覧ください：<https://ohmymap-info.tokyo-omy-w.jp/>

新しい低速自動走行モビリティの実証実験 概要

名称：新しい低速自動走行モビリティの走行実証実験

実施主体：一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会（全般）
ゲキダンイノ合同会社（モビリティ走行他）

協力：JNTO TIC (Tourist Information Center)（モビリティ乗降拠点、外国人観光客モニター募集）
有楽町 micro FOOD&IDEA MARKET（モビリティ乗降拠点、ドリンクスポット）
Slit Park（モビリティ乗降拠点、ドリンクスポット）
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ（大丸有版都市 OS とモビリティ位置情報連携の実装、Oh MY Map!アプリの機能追加）

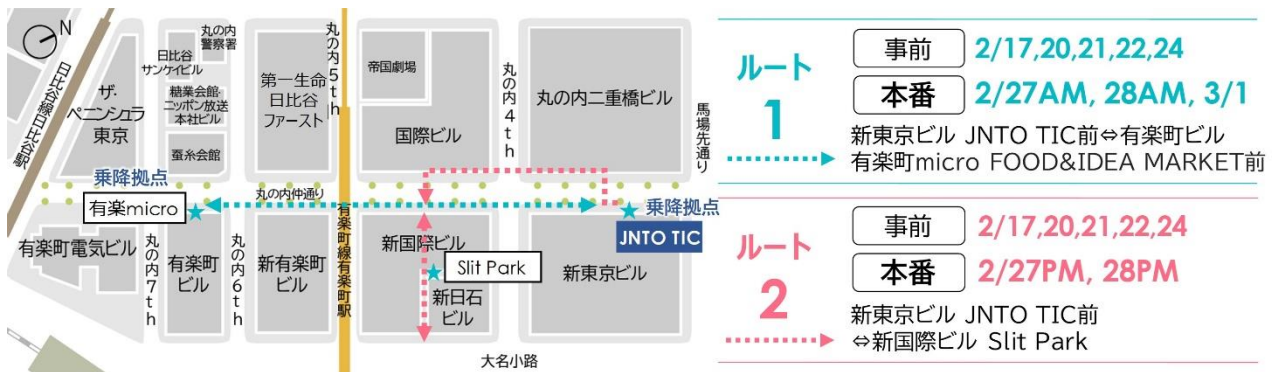
走行期間：2023年2月27日(月)、28日(火)、3月1日(水)

10:00~11:30 13:00~16:30 実施済み。3月1日は15:30 終了。

走行場所：丸の内仲通り周辺（JNTO TIC～有楽町 micro FOOD&IDEA MARKET 間、Slit Park 内）

ルート1 JNTO TIC ~ 有楽町 micro FOOD&IDEA MARKET

ルート2 JNTO TIC ~ Slit Park



走行機体：ゲキダンイノ社製 iino type-S712 1台

サイズ：全長：1195mm×全幅：695mm×全高：1050mm

乗車人数：最大3名

走行レベル：近接監視操作型（運転員1名・保安要員1名が随行（警察指導））

走行速度：最大5km/h 走行速度は1~3.5km/h程度

走行距離：ルート1：約330m/ルート2：約150m（片道）

走行時間：ルート1：片道約6~7分 往復約13分/ルート2：片道約10分 往復約20分

実証時間：ルート1：8時間/ルート2：7時間

検証項目：①低速自動走行モビリティの公共空間における走行実現性および課題
②観光・MICE 時などの利用と本モビリティの移動体験価値との親和性

報道関係者からのお問い合わせ先

大手町・丸の内・有楽町地区街づくり PR 事務局

共同ピーアール(株) PR アカウント本部 9 部 担当：内山・前山・高橋

TEL：070-4303-7327/070-4303-7311 FAX：03-6260-6653

E-mail：tokyo-omy-pr@kyodo-pr.co.jp

【参考】大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり3 団体について

「一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会（大丸有協議会）、NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）、一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会（エコツェリア協会）」の3 団体は連携して大丸有地区のまちづくりを推進しています。

大手町・丸の内・有楽町地区は、公民協調によるサステナブル・ディベロップメントを通じて、約 120ha のまち全域で「新しい価値」「魅力と賑わい」の創造に取り組んでいます。

大丸有協議会を中心に公民でまちの将来像を合意し、リガーレが賑わいや都市観光を促進、エコツェリア協会が社会課題の解決や企業連携によるビジネス創発を具体化しています。

一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区
まちづくり協議会（大丸有まちづくり協議会）

再開発・街づくり・地権者合意形成

大丸有地区の地権者を会員とし、エリアの付加価値を高め、
東京の都心において持続的な発展に向けた取り組みを行っています。



一般社団法人 大丸有環境共生型
まちづくり推進協会（エコツェリア協会）

サステナビリティ/Research & Development/ 環境共生

「経済」「環境」「社会」がバランスよく共存するまちを目指して、
大丸有地区に集う企業・就業者のコミュニティ形成や、
次世代への持続可能なビジネス創発に取り組んでいます。

NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会
（リガーレ）

エリアマネジメント運営

道路を始めとした公的空間の活用や、交流・環境などの活動を通じて、
大丸有地区のブランド向上に取り組んでいます。

【参考】大手町・丸の内・有楽町地区とスマートシティについて

大丸有スマートシティ推進コンソーシアム（千代田区・東京都・大丸有協議会）は、2020 年 3 月に策定した「大丸有スマートシティビジョン・実行計画」に続き、「大丸有スマートシティ実行計画 詳細版」を 2021 年 6 月に策定しました。

URL : <https://www.tokyo-omy-w.jp/>

「大手町・丸の内・有楽町地区スマートシティビジョン・実行計画」 : <https://www.mlit.go.jp/common/001341988.pdf>

「大手町・丸の内・有楽町地区スマートシティ実行計画 詳細版 ver1.0」 : <https://www.tokyo-omy-w.jp/data/pdf/plan-details-1.0.pdf>

「大丸有スマートシティビジョン」では、大丸有地区の「まちづくりガイドライン」に示された「まちづくりの目標像」を実現するために、ビジョンオリエンテッドのスマートシティ化を掲げています。スマートシティ化をまちづくりの目標を達成するための手段として捉え、新たな技術や都市のデータを活用して、都市機能のアップデートと都市空間のリ・デザインを実現していきます。

また、デジタルと都市を高度に融合し、都市のリアルタイムデータを収集することで、データに基づいた意思決定を行う「エリアマネジメントのデジタルトランスフォーメーション（DX）モデル」「データ利活用型エリアマネジメントモデル」を確立し、他地区への横展開を目指します。これにより都市の状況をリアルタイムに可視化・分析し、シミュレーションなどをすることが可能になり、まちの「創造性・快適性・効率性」が飛躍的に向上し、価値が増大します。

なお、2019 年 5 月に国土交通省による「スマートシティモデル事業」の先行プロジェクト、2020 年 7 月に東京都の「スマート東京（東京版 Society5.0）の実現に向けた先行実施エリアプロジェクト」に採択されており、2021 年度は国土交通省「スマートシティモデルプロジェクト」として、「屋内外を統合した 3D デジタルマップの構築による屋内外のシームレスな移動が可能なロボット配送実証実験」を 2022 年 1 月、「丸の内仲通りにおける歩車共存空間での自動運転バス走行実証実験」を 2022 年 2 月、丸の内仲通りなどでカプセルトイや飲料などを販売する「ロボット単独での走行・販売実証実験」を 2022 年 12 月～2023 年 2 月に実施しました。

丸の内仲通りにおける歩車共存空間での自動運転バス走行実証



走行シーンイメージ（2020年度実証の様子）

◀実証概要▶

・低速モビリティの運行による隣接エリアへのハーフマイル回遊性の向上を目的に、
2020年度実証より延伸したルートで自動運転バス走行を実証